

祝・「阿佐谷ジャズストリート」20周年！ 記念パレードが開催されました！

都内屈指のジャズイベントに成長した「阿佐谷ジャズストリート」が、今年で20周年目を迎えました。これを記念し、25日、区役所からJR阿佐ヶ谷駅に向かう中杉通りで、記念パレードを開催しました。

「阿佐谷ジャズストリート」は、1995年、ジャズとけやき並木が美しい中杉通りを愛する人々の手によって始まりました。阿佐ヶ谷駅周辺にはジャズ喫茶等が点在し、愛好家が店を訪れては、その魅力を語り合っていました。また、南北約2kmにわたり、美しいケヤキ並木が続く中杉通りは、阿佐谷の象徴であり住民の自慢でもありました。そうした中で、自然と、幅広い世代に親しまれるジャズで、もっと阿佐谷のまちを明るく元気にしたいという声があがり、「阿佐谷ジャズストリート」開催が持ち上がったのです。しかし、阿佐谷地域には、ホールを備えた大型施設がありません。毎晩のように店に集まり、どこでやろうか、知恵やアイデアを出し合い考えました。そこで、初心に戻り、考えついたのが「まち全体」というキーワードです。いっそのことホールがないことを逆手にとり、阿佐谷ジャズストリートの特徴、強みにしてしまおう！レストラン、神社、教会、学校、会社ロビーなど様々な会場を舞台にして、街中で楽しんでもうらおう！そうすれば、通りすがりの人やたまたまそこにいた人もジャズを聴いて元気になれる！イベントの存在を色々な人が知ってくれる！コンサート会場でなくても、やりたければ開催できる！そう考えたのです。

こうして、第1回目に開かれた「阿佐谷ジャズストリート」は運営スタッフ約25人、会場数13、来客数約2千人。初めての試みとしては大きな成果がありました。もちろん、新しいことを始めれば、いいことばかりではありません。最初は、騒々しい、なぜ阿佐谷でジャズなの？という声も寄せられました。また、継続することこそまちのエネルギーになると考え、確約されない助成金に頼らず手弁当で運営する道を選んだため、経費の課題もありました。それでも、『阿佐ヶ谷をジャズで明るく元気なまちに』を合言葉に、3年、5年と続けていくと、商店会では年中ジャズをBGMに流してくれたり、運営スタッフになりたいという申し出がきたり、少しずつ理解者や協力者が増えました。今ではすっかり定着し、七夕まつりと合わせて、阿佐谷が誇るビッグイベントにまで成長しました。

そして、今年はずいぶん開催20周年目を迎えました。会場数は史上最高の67。運営スタッフも40名を越え、当日ボランティアは約200名にのぼります。

25日、20周年を記念し、区役所（阿佐谷南1-15-1）からJR阿佐ヶ谷駅に向かう中杉通り（約700m）では、「阿佐谷ジャズストリート20周年記念等パレード」が開催されました。「等」となっているのは、2020年東京オリンピック・パラリンピックと、来月17日から交付開始となる杉並ナンバー（ご当地ナンバー）のPRパレードも同時に開催されたからです。

午前11時15分頃、特別ゲストとして招かれた、元五輪水泳選手で区内在住の長崎宏子さんの合図により、パレードがスタート。ジャズストリートで活躍するアーティストや、毎回参加している杉並第二小学校ウィンドバンドの皆さんも隊列に加わり、ジャズの音色に合わせ、田中良（たなか りょう）区長や渡辺功一（わたなべ こういち）阿佐谷ジャズストリート実行委員長ら総勢約150名が、約30分間にわたり行進しました。沿道には約1万人の観客が訪れ、パレードを盛り上げました。

渡辺さんに、これからの20年について抱負を伺うと「今までと何も変わらないよ。皆で知恵や力を出し合って、まちを想い、人を想い、継続していただけたよ」と話しています。

